

August 21, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米10年債利回りが1.5386%まで低下したことで106.16円まで下落

20日のニューヨーク外国為替市場でポンドドルは一転上昇した。ジョンソン英首相は欧州連合（EU）に対してアイルランド国境問題の解決策「バックストップ」削除を要求したものの、EUはこの要求を拒否。英国の合意なきEU離脱への警戒感が高まり、20時過ぎには一時1.2065ドルと日通し安値を付けた。

ただ、メルケル独首相が「バックストップの実務的な解決策について検討する」と発言すると、英国の合意なきEU離脱への警戒感が和らぎポンド買い戻しが優勢となり、1.2179ドルまで上昇した。

ポンド円も128.27円と本日安値を付けたが、独首相発言後に129.63円まで急伸した。ユーロポンドは0.9184ポンドと本日高値を付けた後、0.9101ポンドと本日安値まで急落した。

ユーロドルは6営業日ぶりに反発。終値は1.1100ドルと前営業日NY終値（1.1078ドル）と比べて0.0022ドル程度のユーロ高水準。コンテ伊首相の上院での演説を控える中、伊政局混乱への懸念を背景にユーロ売り・ドル買いが先行し、1.1066ドルと16日の安値に面合わせした。

ただ、コンテ伊首相が辞任を表明するとショートカバーが優勢に。米長期金利の低下などを手掛かりに全般ドル売りが進んだ影響も受けて1.1107ドルと日通し高値を付けた。市場では「コンテ首相は辞任を表明したが、新たな連立政権が樹立され早期解散総選挙は回避できるとの見方が出ている」との指摘。

ドル円は4日ぶりに反落。終値は106.23円と前営業日NY終値（106.64円）と比べて41銭程度のドル安水準だった。米10年債利回りが1.5386%前後まで低下したことなどを理由に円買い・ドル売りが先行。22時過ぎに一時106.16円と日通し安値を付けた。16日の安値106.03円や節目の106.00円がサポートとして働くと買い戻しがやや優勢となり、106.46円付近まで下げ渋る場面もあったが、米金利低下に伴うドル売りは根強く戻りは鈍かった。

ユーロ円は3日ぶりに反落。終値は117.93円と前営業日NY終値（118.13円）と比べて20銭程度のユーロ安水準となった。117.58円まで値を下げたものの、コンテ伊首相の辞任が伝わると買い戻しが優勢となり118円台前半まで持ち直す場面があった。

【本日の東京為替見通し】ドル円、リスク回避の円買いで軟調推移か

本日の東京市場のドル円は、本日から明日にかけて開催される日米閣僚級通商協議、22-24日に開催されるジャクソンホール会議を控えて動きづらい展開の中、リスク回避の円買いで軟調推移が予想される。

ドル円の上値を抑える要因としては、米中貿易・通貨安戦争や日米通商協議、英国の合意なきEU離脱懸念、コンテ伊首相の辞任表明を受けたイタリアの政局混迷懸念、中東や極東の地政学リスクへの警戒感、欧米金融当局の金融緩和観測の台頭、などが挙げられる。

21-22日の日米閣僚級通商協議では、9月の日米首脳会談での合意に向けて、ライトハイザー米通商代表部（USTR）代表は、米国産農産物の環太平洋連携協定（TPP）並みの関税、あるいは関税の撤廃を目論み、茂木経済財政相は自動車関税の撤廃を目論んでいる。

日米貿易不均衡是正に向けて、「為替条項」の導入、「為替操作国」認定、日米安全保障（有志連合への参加、米軍駐留経費の負担増）との兼ね合いにも要警戒となる。

22-24日のジャクソンホール会議では、23日に予定されているパウエルFRB議長の講演で、年末に向けた追加利下げに言及されるとの思惑がドル円の上値を抑えている。

パウエルFRB議長は、2018年のジャクソンホール会議では、「漸進的利上げ」を主張したタカ派だったが、今年は、ハト派として、市場が織り込んでいる0.25%の利下げを追認するのか、0.50%の予防的利下げに踏み出すのか、あるいは、トランプ米大統領の1.0%利下げ圧力に屈するのか、要注目となる。リスクシナリオは、利下げ見送りというタカ派的な見解が示される場合となる。

米中貿易・通貨安戦争の停戦・休戦措置として期待される米中通商協議は、トランプ米大統領が「米国・香港政策法」を背景に香港問題を交渉カードに持ち込み、習中国国家主席は「反テロリズム法」を背景に武力鎮圧を示唆していることで、難航・決裂が警戒されている。

ドル円のテクニカル分析での上値の目処（めど）は、106.98円（8月13日高値）、107.19円（一目均衡表・基準線）、下値の目処（めど）は、105.05円（8月12日安値）、104.87円（1月3日安値）、103.66円（99.02円-118.66円の上昇幅の76.4%押し）となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>
特になし

<海外>

- 17:00 ◎ 7月南アフリカ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.7%／前年比 4.4%）
- 20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数
- 21:30 ◎ 7月カナダ CPI（予想：前月比 0.2%／前年比 1.7%）
- 23:00 ◎ 7月米中古住宅販売件数（予想：前月比 2.5%／年率換算 539 万件）
- 23:30 ◇ EIA 週間在庫統計
- 22日 03:00 ☆ 米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨（7月30日－31日分）
- 日米閣僚級貿易協議（ワシントン、22日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

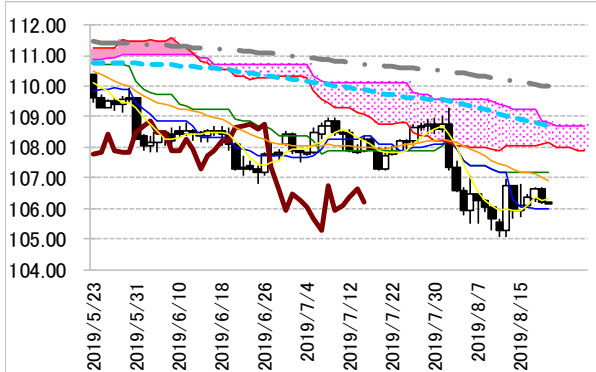
【前日までの要人発言】

- 20日 10:36 ホワイトハウス高官
「景気支援に向けた一時的な給与税減税は、検討していない」
- 20日 16:05 クリバリー英保守党議長
「EUはある程度の柔軟性を示す必要がある」
「バックストップ問題を解決できたならば、合意に至るだろう」
- 20日 16:08 サルビーニ副首相(同盟党首)
「来年度に衝撃的な財政刺激策を実施するならば500億ユーロの予算が必要」
- 20日 17:12 中国外務省
「米国のファーウェイに対する制裁に不満」
- 20日 17:17 ジョンソン英首相(ツイッターにて)
「10月31日に英国をEUから離脱させるために全力を尽くす」
「英国にとって良い取引を求めるならば、合意なき離脱への準備も必要」
- 20日 19:39 欧州委員会報道官(ツイッターにて)
「離脱案の合意にはバックストップは必要」
- 20日 20:44 チャブシオール・トルコ外相
「トルコと米国はシリア内の安全地帯設置について完全合意に至っていない」
- 20日 22:21 コンテ伊首相
「サルビーニ副首相は個人的と党の関心に従っている」
「予算は時間通りに通過しないだろう」
「サルビーニ副首相は約束を破った」
「毎年選挙を行うのは無責任だ」
「イタリアはEUとの交渉で弱い立場に今なっている」
「付加価値税を上げなければならないかもしれない」
「現政権の活動はこれで終了」
「辞任のため本日で大統領と会う」
- 20日 22:42 ヨクニック・スウェーデン中銀(リクスバンク) 第1副総裁
「景気は減速しているがリセッションではない」
「ハード・ブレグジットのリスクが高まっている」
「最近の経済指標では世界的に大きな減速はみられな

- い」
「6、7月のインフレ予想に沿ったもの」
- 20日 23:01 メルケル独首相
「バックストップの実務的な解決策について考える」
- 20日 23:55 格付け会社フィッチ・格付け担当長
「アルゼンチンのデフォルトの可能性はあるが、可能性は高くはない」
- 21日 03:24 トランプ米大統領
「中国は貿易協定の合意を望んでいる。それはすぐかもしれないし、しばらく後かもしれない」
「米国はリセッションからほど遠い」
- 21日 05:44 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁
「雇用はほぼ完全雇用」
「リセッションに向かうとは思わない」
- 21日 06:52 ポンペオ米国務長官
「米中合意は選挙までに成立可能と思う」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

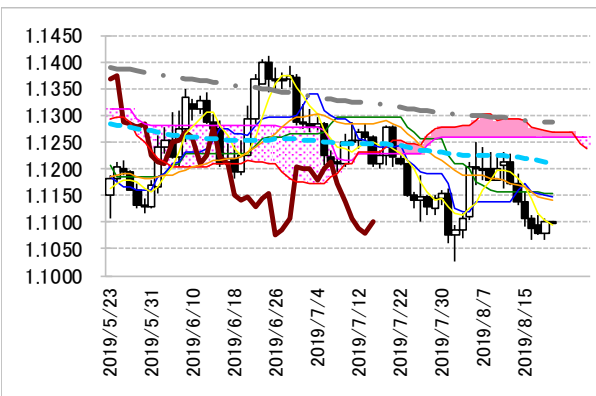


<ドル円＝基準線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。3手連続陽線で反発していたものの、抱き線で反落しており、下落トレンドが再開する可能性が示唆されている。

本日は、転換線 106.02 円を念頭に置き、基準線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	107.19(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.23
サポート 1	105.66(8/14 安値)
サポート 2	105.05(8/12 安値)

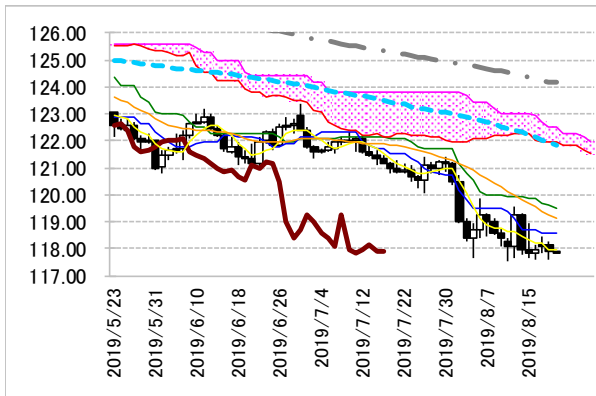


<ユーロドル＝8/1 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線の後、抱き線で反発しており、綾戻しの可能性が示唆されている。

本日は、1日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1149(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1100
サポート 1	1.1027(8/1 安値)

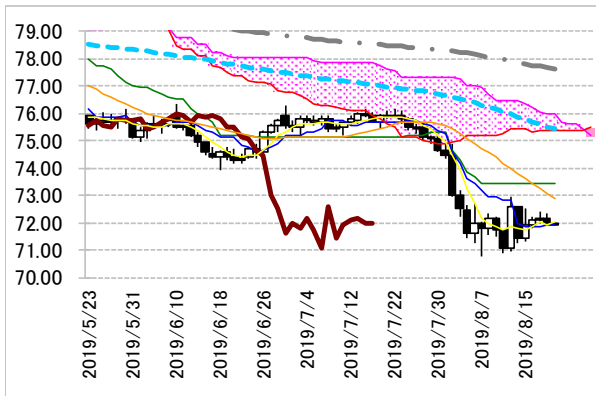


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8月14日の大陰線の後、底値圏でのみ合いが続いているものの、一目・転換線を下回っている限り、下落トレンド継続。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	118.56(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	117.93
サポート 1	117.52(8/12 安値)



<豪ドル円＝13日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。13日の抱き線で反発、14日の孕み線で反落後、14日の陰線内でのみ合いが続いており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、13日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.93(8/13 高値)
前日終値	72.00
サポート 1	70.75(8/7 安値)

